

ニンニクのカルテック施肥例

(10アール当り)

| 時期 | 方法 | 資材 |
|--------------|--|--|
| 地力作り | なるべく早い時期に、右記4種を同時に散布して深耕する。 (植付けまでに一カ月以上おいて下さい) | ラクトバチルス 600g … 通気性・保湿性・保肥性のよい、肥沃な土を作る 堆厩肥 2トン (以上) 硫安 80kg (~100kg) (N成分: 16~20kg、全量元肥) 畑のカルシウム 60kg (~100kg) ※長期間 肥切れしない、安定した地力を作ることが必須です。 そのためには微生物主体で、堆肥を十分に投入しておくこと。 堆肥の醗酵が悪く未分解だと、ネダニなどの虫害が多く、秋の根張りが弱く、サビなどの病害も増えます。 ※チッソは微生物作用で地力化され、植付けまでには土壤EC:0.2に落ち着いているはずで、これが重要な点です。 緩効性肥料はいつ効いて来るか解りませんが、微生物によって地力化された肥料分は 適期に確実に効きます。 [もしも砂地や痩せ地で堆厩肥が少ない場合は(明らかに不足な場合のみ)、硫酸カリ 20kgを追加することもあります。] ※ニンニクでは(特に追肥をしない場合は)、カルシウムは土層深くまでシッカリ投入して、翌年晩春までジワジワと効かせるのが良い。 もしも堆肥が 好気性分解の「完熟堆肥」などで、アルカリ性の場合、畑のカルシウムではなく カルテックCa粒状を投入して下さい。土層全体を pH:6.2前後(6.0~6.5)に調整しておくこと。 |
| | | ニンニク栽培では、地力づくりが最重要 |
| 整地時 | 整地時に全面に散布 | 畑のカルシウム 20kg (または カルテックCa粒状) ※初期に効かせて ガッチリ強い体力を作るためのカルシウム栄養。 |
| (9~10月) 植付け時 | 種球の鱗片を植えて、灌水 | 濃縮酵素液 500倍 … 初期の根を強く張らせ、生長を促進します。 ※秋の暖かいうちに根を十分に伸ばして、越冬前の体力を作る。 そのためには、植付け15日後頃に 再度、灌水するのが効果的。 ※秋に生長が遅い(弱い)場合は、肥料よりも 酵素液 を。 (秋にEC:0.2より高い、肥料過多にすると、春に病害が増えます) |
| (11月頃) 晩秋 | 越冬の前に体力充実を | カルテックCa液状 500倍 葉面散布 … 糖度を上げ、耐寒性を増強 ※冬季にそなえて体力を蓄積する。[状態によって アミノ酸液] |
| (12月~) 葉の収穫 | 葉ニンニクとして収穫する場合 | ①(11月後半) 濃縮酵素液 500倍 葉面散布 … 根と生長の促進 ②10~15日後に カルテックCa液状 500倍 葉面散布 … 厚み・旨味を増進 |
| (3~4月) 春 | 春、根が動き始める頃から。状態によって適宜に散布。 (カルシウムなどを追肥するならば、なるべく早春に) | ① 濃縮酵素液 500倍 葉面散布 (または灌水) ※根を強く動かし、生長を進める。 葉先枯れ症状が出ないように。乾燥の場合はタツプリ灌水。 ②10~15日後に カルテックCa液状 500倍 葉面散布 (なるべく繰返し) ※鱗球の充実をはかり、春腐病・葉枯病・サビ病を防ぐ。 ※ 畑のカルシウム 20kg を施すと、球の充実と品質向上に効果的。 ※もし肥切れの場合は チッソだけでなく、必ずカルシウムを併用すること。 硫安 20kg + 畑のカルシウム 20kg [チッソ追肥は通常は不要] |
| (4~6月) 仕上げ | 球の収穫予定(5~7月)の30日前に | カルテックCa液状 500倍 葉面散布 … 球を重く充実させ、キレイな白色に。腐敗を防止。 |

ユリ科ネギ属。

〔暖地系品種:鱗片が多い〕 福地ホワイト, 上海早生, 遠州極早生 〔寒地系品種:低温要求量多〕 寒地ホワイト, ホワイト六片。